

被服構成技術 スカートのプリーツに関する一考察 第一報

Skill of Clothing Construction¹⁷ (I):
A Study on Pleats of Skirt

市 村 ノ ブ
Nobu Ichimura

緒 言

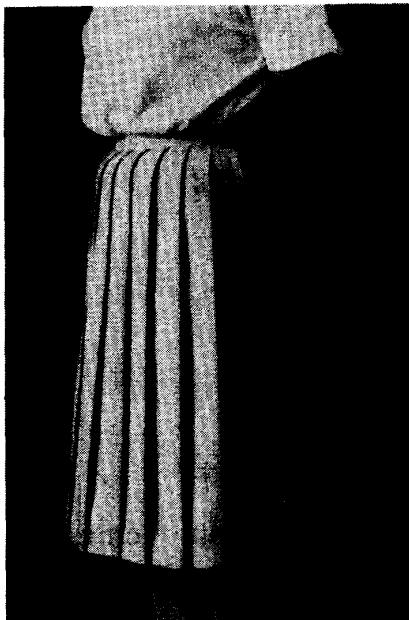
総プリーツスカートの優雅な直線の揺れる動きの美しさは、婦人服ならではの魅力であり、素材によって日常着・外出着と、また、年令差もなく広範囲に着用出来る。総プリーツスカートは、機械プリーツと手工プリーツがあり、機械プリーツは委託加工が可能である。手工プリーツは1本1本を折り上げ、素材により技法も違い手数がかかるが、被服構成技術を修得するには貴重な経験である。

若い人向きの総プリーツは素材・サイズ・色彩・格子模様と大変豊富であるが、中高年に致ってはその比ではない。女性であればいくつになっても美しいものに憧憬をもち、常に美しく装いたいという願望には年令差もなく無限であろう。そこで女性の願いを満すために中高年普通肥満タイプに重点をおき、総プリーツスカートについて研究を試みた。

以前、総プリーツスカートを手がけた経験があるので、肥満タイプのウエストからミドルヒップにかけてむずかしく、今回は普通タイプの肥満を中心にし、季節を考慮し、ウールを主体にした年代別による体型の違いに応じて、素材とプリーツの算出方法と折り方の相違を実証したく製作した。

作例 1. 総プリーツスカート

(左脇あき, 穴かがり, ボタンつき, ひとえ仕立)



1. 材 料

表スカート地……W巾 140cm (ポリエステル・綿・麻の混紡)

付属品……………インサイドベルト (片面接着剤つき)

接着芯 (ステーフレックス M400)

ボタン (直径 1.8 cm 7 個)

ミシン糸 (ポリエステル糸 60 番)

前かん (1 個)

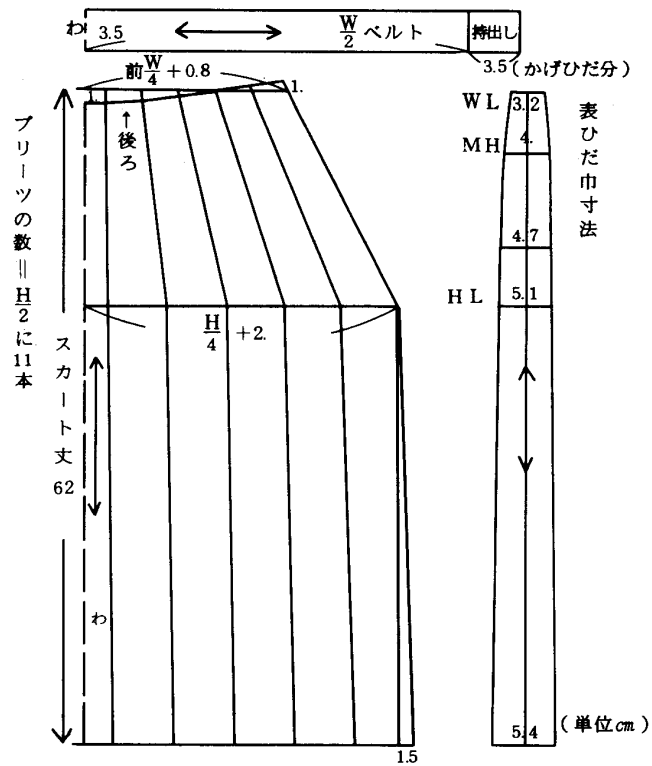
2. 採 寸

年 令 20 才 学 生					
身長	163 cm	ウエスト	69 cm	スカート丈	62 cm
		ミドルヒップ	93 cm	ベルト巾	3.5 cm
体重	60 kg	ヒ ッ プ	101 cm		

ヒップ寸法は実寸より 2 cm ゆるく採寸した。

ウエストとヒップの差 32 cm, ウエストからミドルヒップにかけて肉づきがある。

3. 作 図

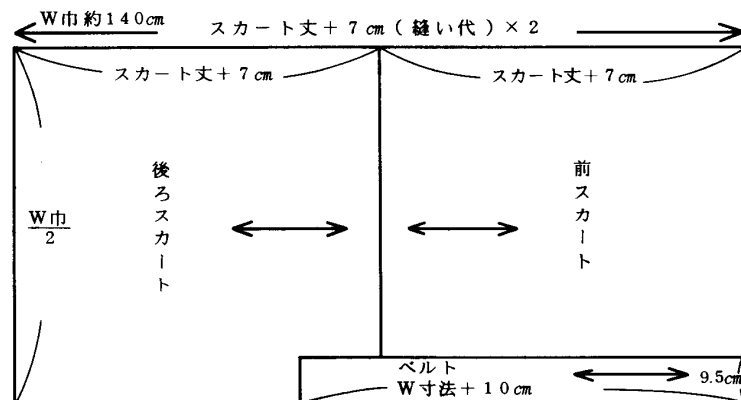


4. 地 の し

スチームアイロンを裏から布目を正しながらアイロンをかける。

5. 裁 断

表スカート



ベルトを裁ってから前後スカート裁つ

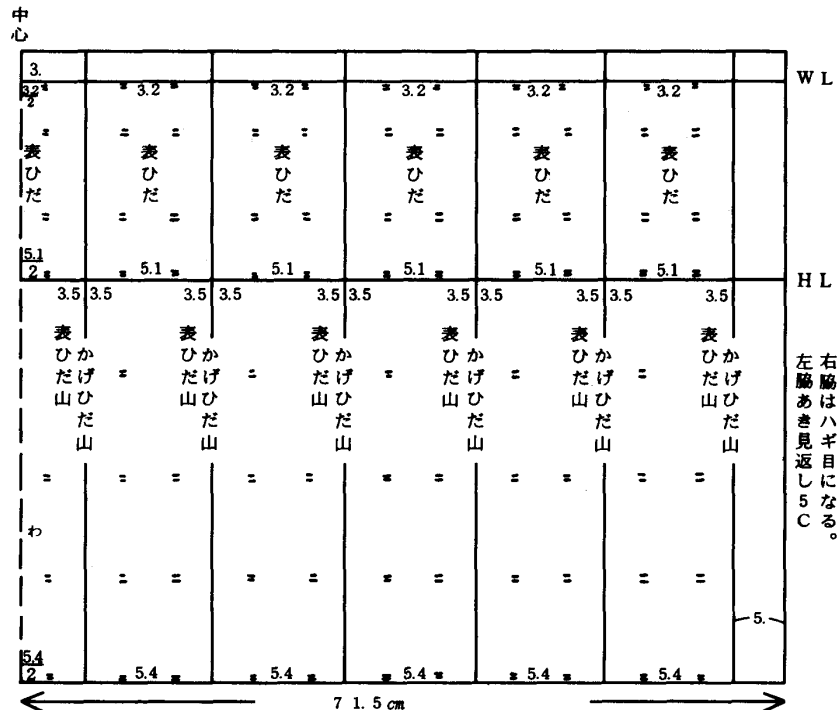
6. ロックミシンがけ

前後スカートの裾縫い代 3 cm に表からロックミシンがけ。

4

7. 裾まつり

8. 印つけ



WLとHLはチャコで基礎線をひく。

プリーツの本数…… $\frac{H}{4}$ で5.5本

プリーツの算出方

$$H \text{の表ひだ巾} (5.1) \times 5.5 = 28 \text{ cm}$$

$$\text{かげひだ巾} (3.5 \times 2) \times 5.5 = 38.5 \text{ cm}$$

$$28 \text{ cm} + 38.5 \text{ cm} + 5 = 71.5 \text{ cm}$$

9. 切りじつけ

後ろスカートを中表に合せ、後ろ中心の布目を通し、裾口を揃え、中心から型紙をプリーツの算出どおり切りじつけをする。前スカートも同じ。

10. プリーツのアイロンがけ

用具

- ① アイロン
- ② アイロン台
- ③ 当て布
- ④ ハترون紙 約巾5cm丈50cm3枚, 約巾15cm丈40cm1枚

⑤ ボールに水を入れておく。

⑥ 折り目加工液 成分…熱可塑性樹脂

プリーツのアイロンのテスト。

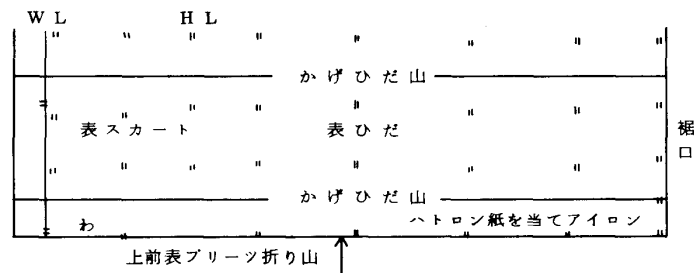
実物の残り布よこ30cm, たて40cmに実寸で表ひだ, かげひだ, の印をつける。

表プリーツの折り山を伸ばぬようにアイロン台と平行におき, かげひだ側からハترون紙を当て, 当て布に水をふくめ, アイロンがけ。次に折り目液を直にプリーツにかげひだ側からハترون紙を当て, アイロンがけ。

テストの結果。

折り目液をつけると, やゝ硬い風合いになるが, 雨に降られた状態に霧を吹いてもプリーツの折り山は変らなかった。

プリーツアイロンがけ方の図



後ろスカート……表ひだ山11本をアイロンがけ, 次にかげひだ山を11本アイロンがけする。

前スカート……後ろスカートに同じ。

前後スカート共に, 表プリーツ側に折り目加工液をスカート全体に平均にスプレーし, ハترون紙約巾15cm, 丈40cmを当てアイロンする。

11. 仮縫い

① 右脇縫い

② 左脇あき

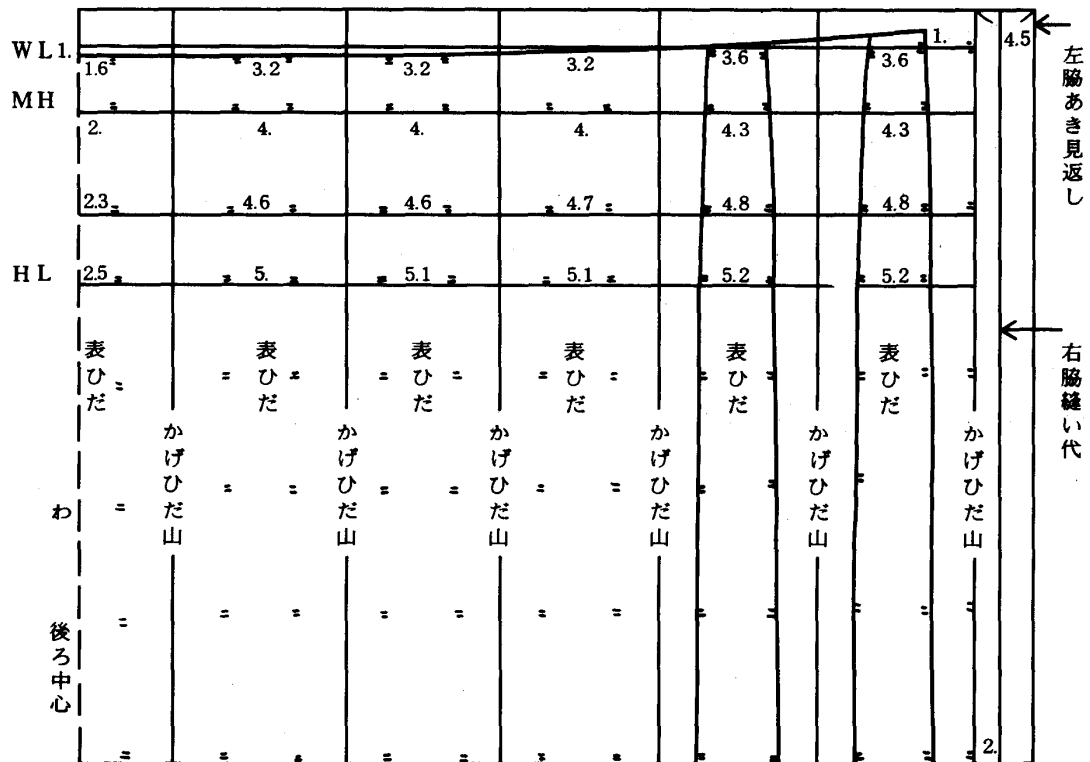
後ろスカートの脇のかげひだ印から裏に折りしつけ (かげひだの 3.5 cmが持出し分になる)。

前スカートは表ひだ巾から見返し分を裏に折りしつけ。

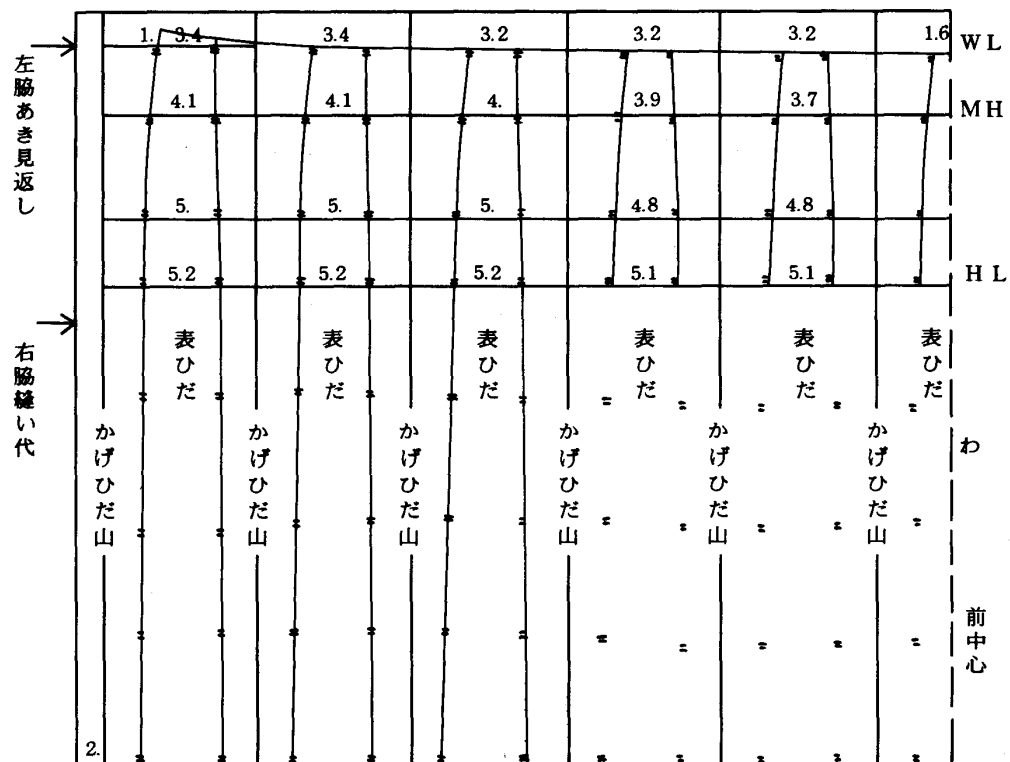
③ インサイド ベルトつけ

12. 補正

後ろスカート



前スカート

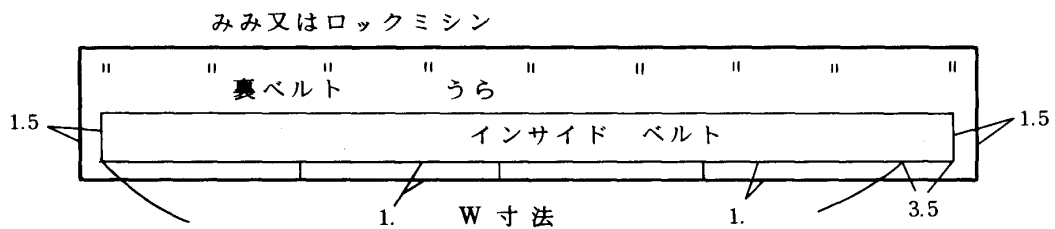


仮縫いの結果。

- ① ヒップの採寸とゆるみが適当であった。
- ② 後ろスカートの左右脇から2本ずつ少し巾を出した補正図のとおり。
前スカート左右脇3本目まで少し出し、前中心と左右2本目は補正図のとおり少くする。
- ③ シルエットもよい。歩くとプリーツが揺れ裾巾も少し広がる。モデルは上背があるのでこの裾巾でよい。

13. 本 縫 い

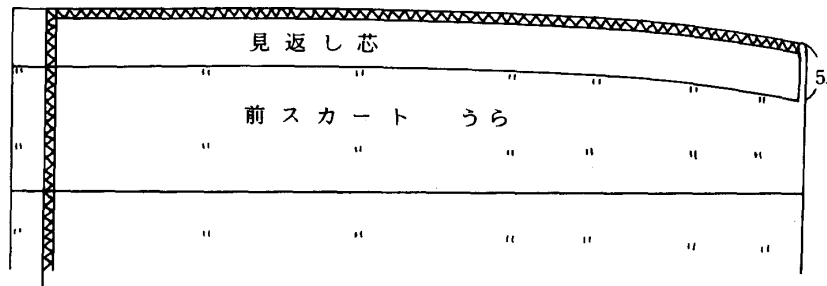
- ① ベルトにインサイドベルトを貼る。



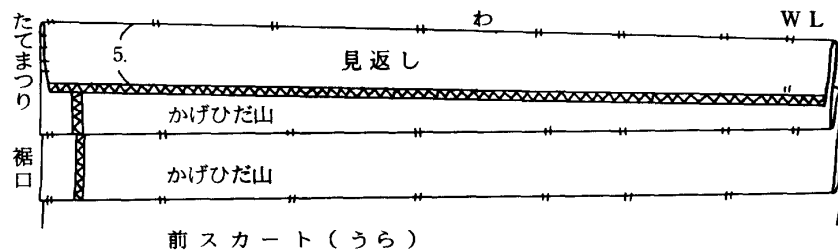
- ② 脇縫い

右脇縫い地縫いミシンがけし、裾口1.5の返し縫い。1cmの縫い代にロックミシンがけ。

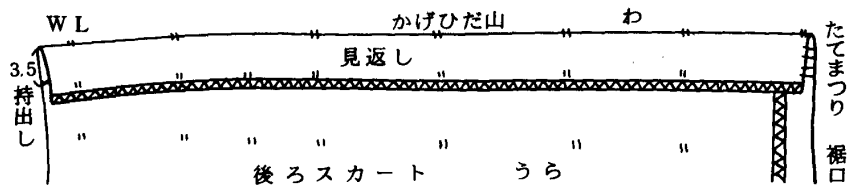
- ③ 前スカートの裁ち出し見返しに接着芯を貼り、ロックミシンがけ。



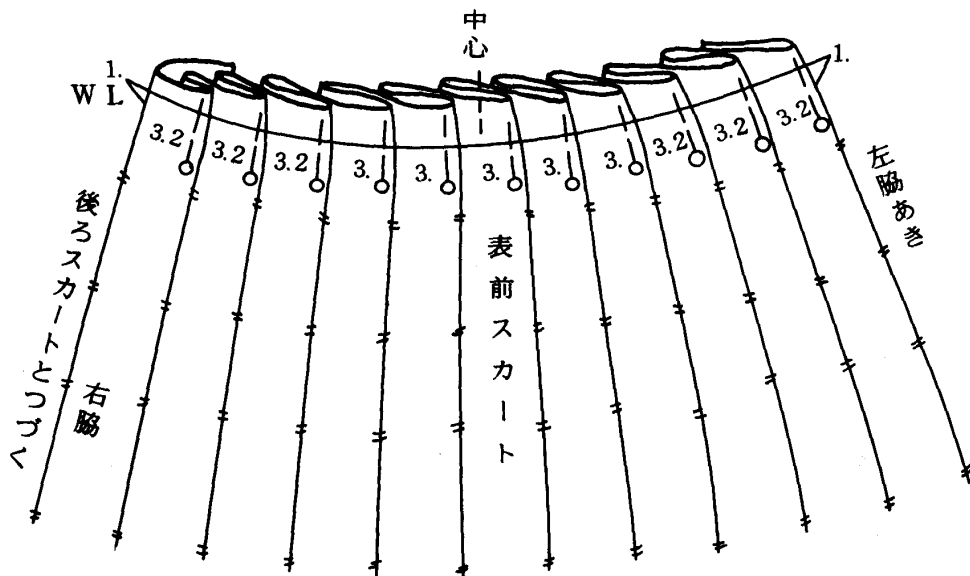
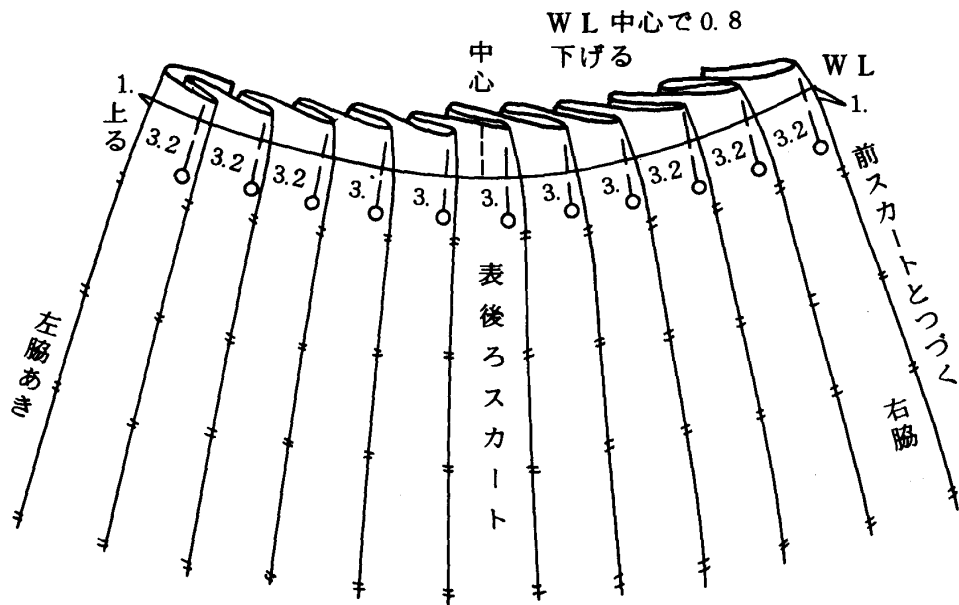
前スカートの見返しを折り、裾口まつる。



後ろスカートの見返しにロックミシンがけ、裾口まつる。



④



WLのひだしを図のように補正ピンを打ち直しいせ込みとする。WLを計る。

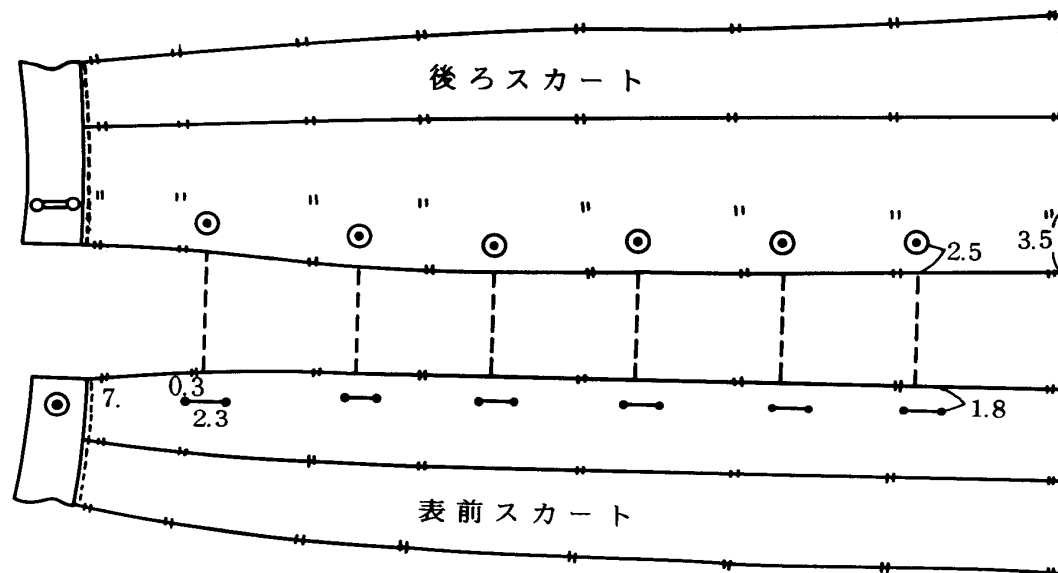
⑤ ベルトつけ

表スカートと表ベルトを中表に合せ、ピンを打ち、しつけ、ミシンがけ、0.8の縫い代に裁ち揃え、ベルト丈の先を縫い、表返し、ベルト巾を整え、しつけ、表ベルトつけに落としミシン。

⑥ 穴かがり

前スカートの見返しの部分と同じに、残り布に接着芯を貼り、穴かがりを実物大で充分に試作してから穴かがりする。

⑦ ボタンつけ



⑧ 仕上 げ

アイロンがけ。

作例 2. 総プリーツスカート

(総裏つき, 左脇あきファスナー)



1. 材 料

表スカート地……サキソニー(ウールW巾ラメ入れ 150cm)

裏スカート地……ヤール巾 130cm

付属品……………インサイドベルト(片面接着剤つき)

ファスナー

ミシン糸(ポリエステル糸 60番)

前かん(1個)

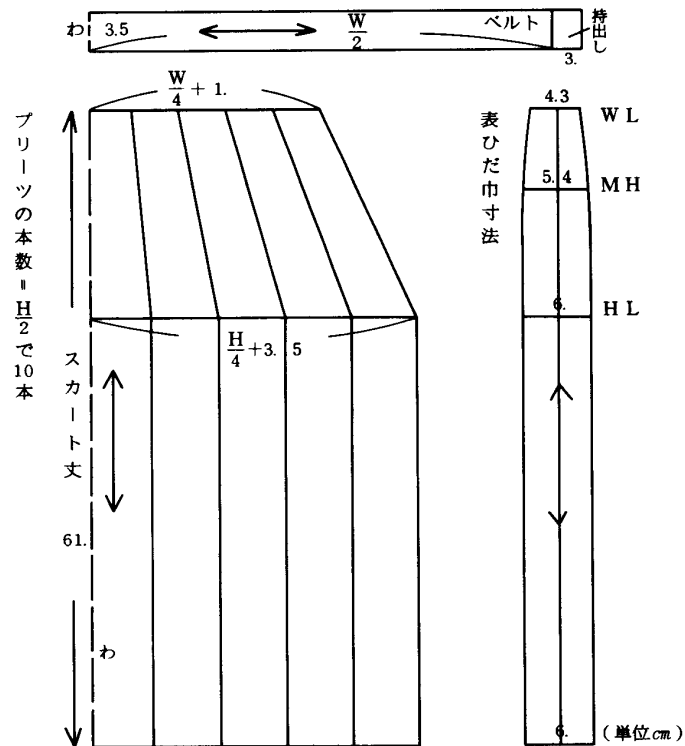
2. 採 寸

年令 35才 事務員					
身長	150 cm	ウエスト	85 cm	スカート丈	61 cm
		ミドルヒップ	102 cm	ベルト巾	3.5 cm
体重	68 cm	ヒ ッ プ	106 cm		

格子模様のプリーツのきめ方

格子の色彩のたて・よこの寸法を効果的に出すため、生地でプリーツをピンで折り、スタンに着せ、様子を見て本数とプリーツ巾をHLで算出する。

3. 作 図

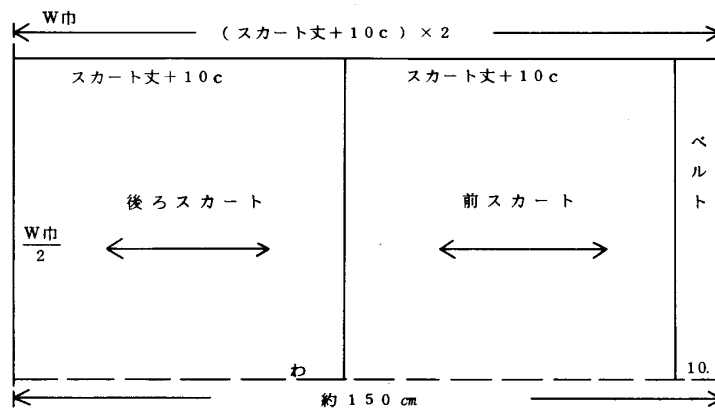


4. 地のし

作例1に同じ。

5. 裁 断

表スカート



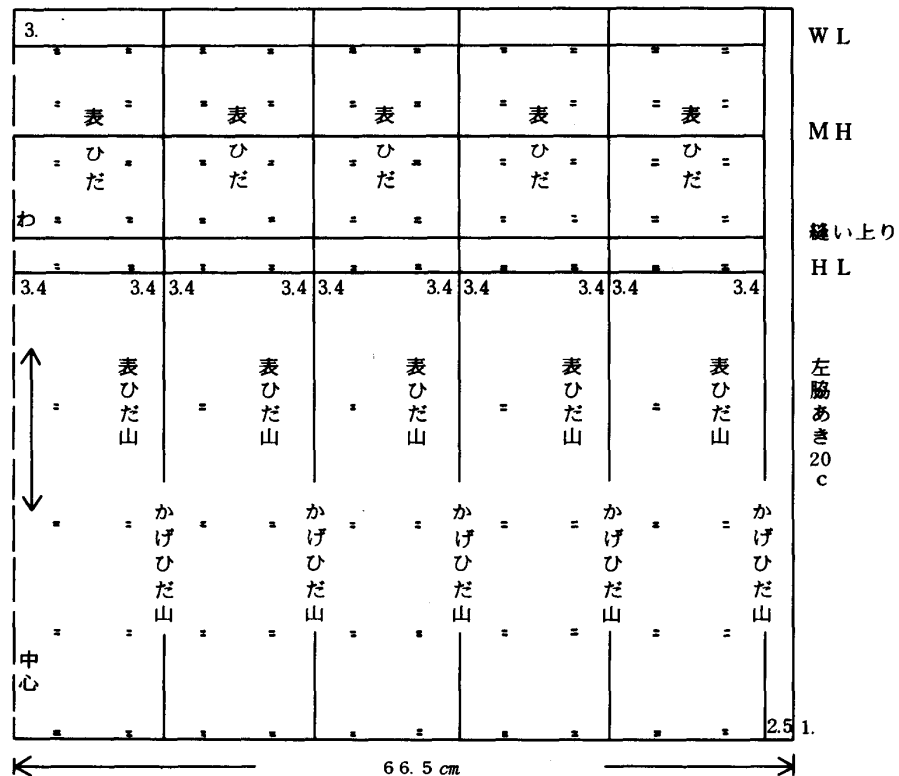
ベルト分を10cm丈から裁ち、前後スカートの脇縫いで格子が合うよう注意して裁断する。

6. ロックミシンがけ

前後スカートの裾縫い代 3 cm に表からロックミシンがけ。ベルトはウエスト寸法 + 8 cm に裁ち、裏ベルト側にロックミシン。

7. 前後スカートの裾まつり

8. 印つけ



プリーツの本数は $\frac{H}{4}$ に 5 本。

プリーツの算出法

$$H \text{ の表ひだ巾 (6) } \times 5 = 30 \text{ cm}$$

$$H \text{ のかげひだ巾 (3.4} \times 2) \times 5 = 34 \text{ cm}$$

$$30 \text{ cm} + 34 \text{ cm} + 2.5 = 66.5 \text{ cm}$$

9. 切りじつけ

後ろスカートを中表に合せ、後ろ中心の布目を通し、格子模様を合せ、裾口を揃え、印つけ図のとおり切りじつけする。

10. プリーツのアイロンがけ

用具……作例 1 に同じ。

プリーツのアイロンがけのテスト。

実物の残り布でテスト。

表プリーツの折り山格子のとおり，かげひだ側からハترون紙を当て，当て布に水をふくめアイロンがけ。これを二回繰り返す，次に折り目液をつけハترون紙を当てアイロンがけ。アイロンの温度は毛織物にし，高温にならぬよう注意した。

テスト結果

折り目液をつけると，やゝ硬い風合いになるが，雨に降られた状態に霧を吹いても，プリーツ折り山は変らない。

後ろスカート・前スカート

表ひだ10本，かげひだ10本にアイロンがけする。表スカートから折り目液をスプレーハترون紙を当てアイロンする。

11. 仮縫い

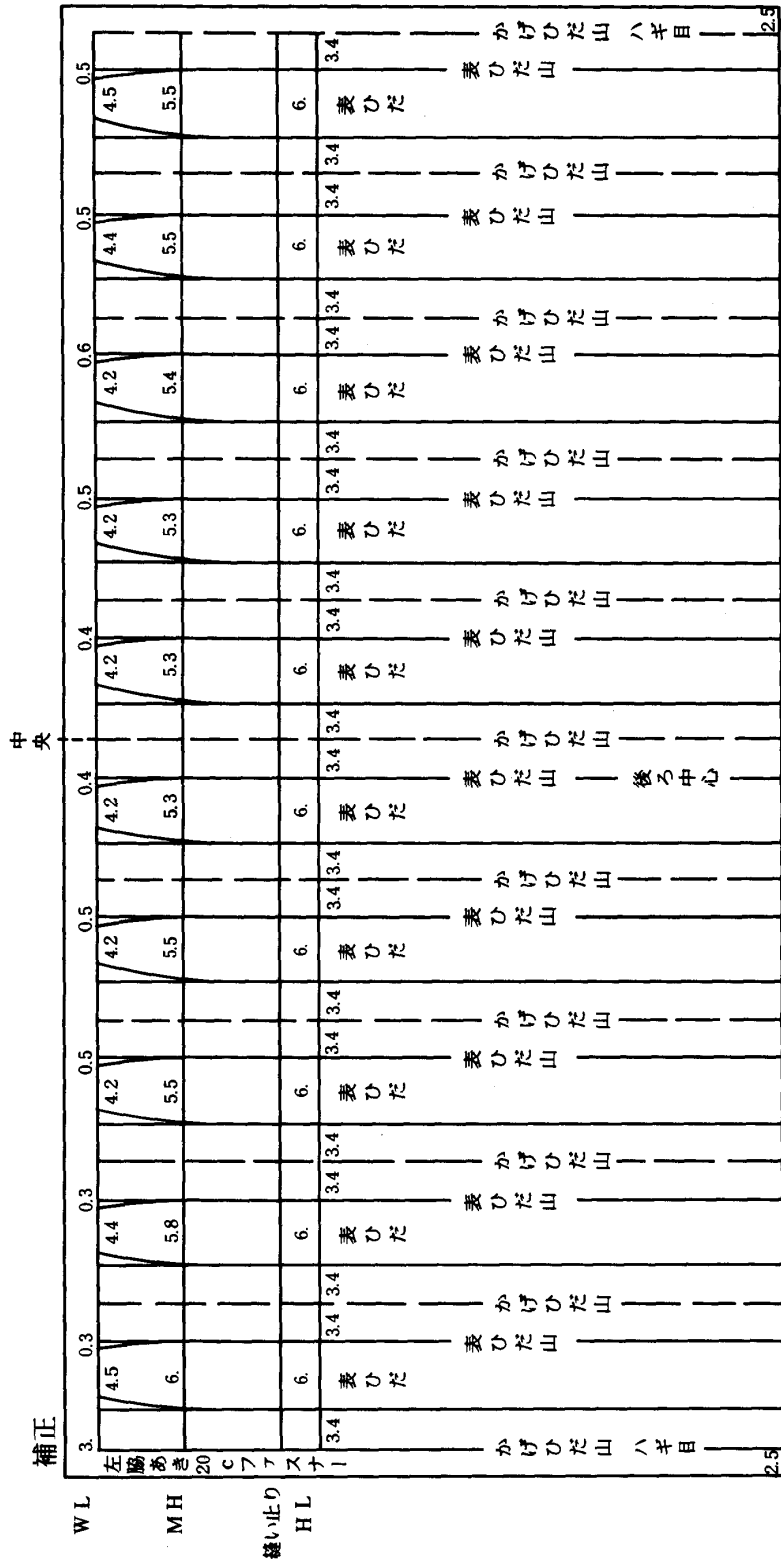
- ① プリーツ縫い止りにしつけ。
- ② 脇縫い
右脇縫い，左脇あき20cm残し脇縫い。
- ③ 左脇あき，前スカート脇あき縫い代をしつけでとめる。
- ④ インサイドベルトはウエスト寸法+ 3 cmにし，ベルトつけ。

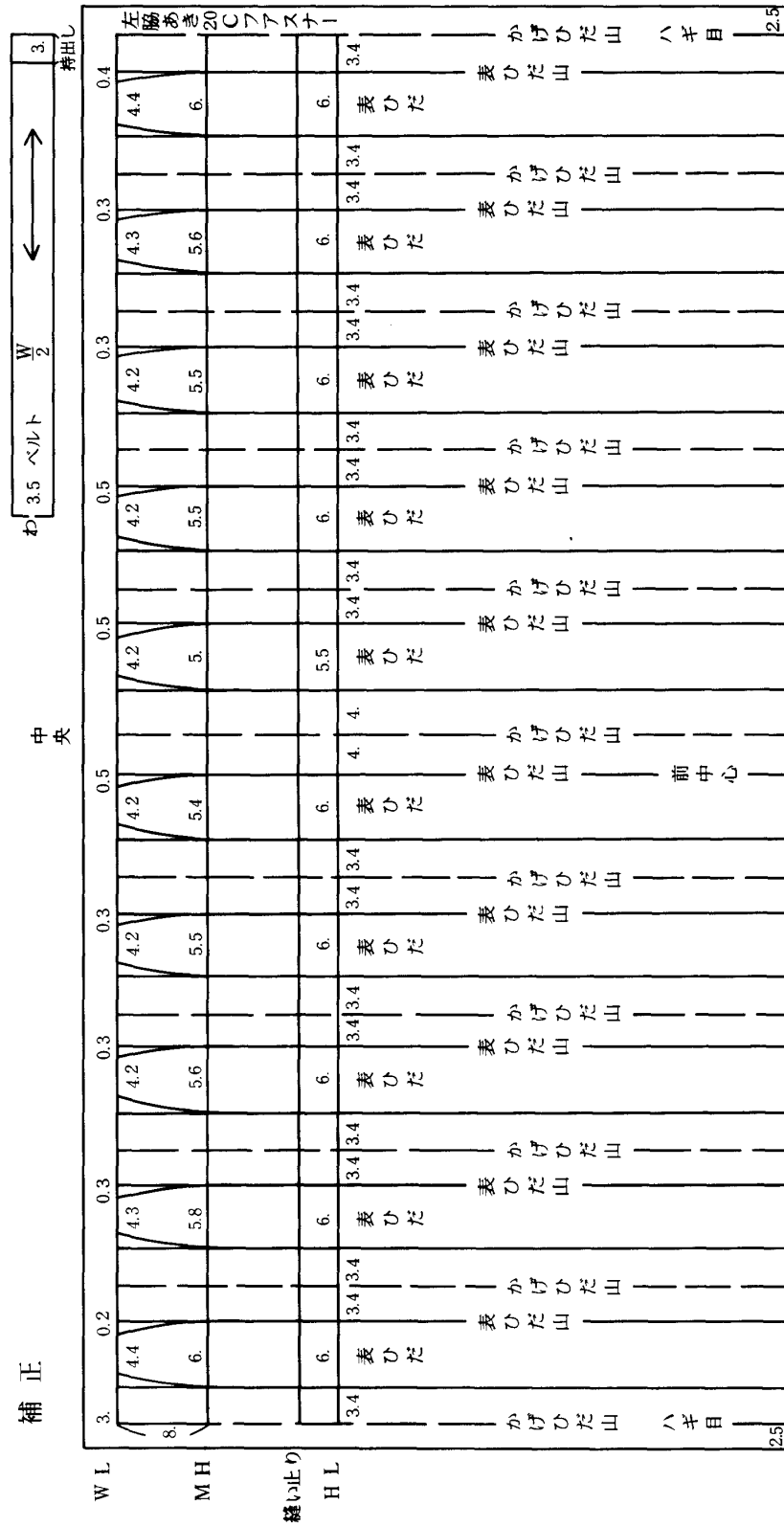
仮縫いの結果

ヒップの採寸とゆるみは適当である。表ひだの縦の格子模様の色彩が濃く巾は約 2.3 cmが目につく。ヒップから裾までストレートで問題はないが，ウエストからミドルヒップとヒップにかけて縦の格子模様がねじれずに自然でなければならない。補正は図のようにした。

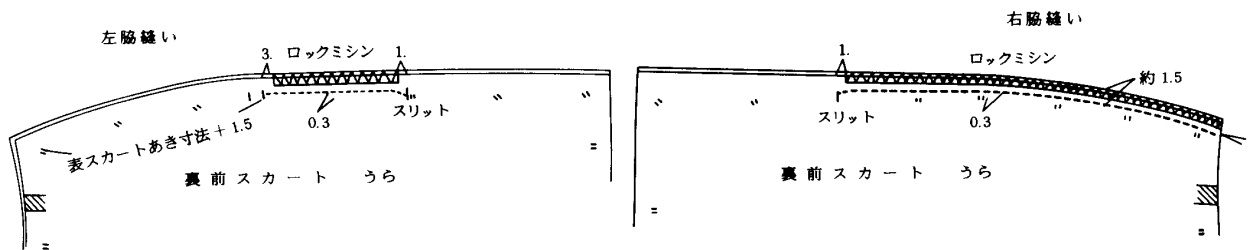
脇のミドルヒップの部分がむずかしく仮縫いを二回した。

12. 補正

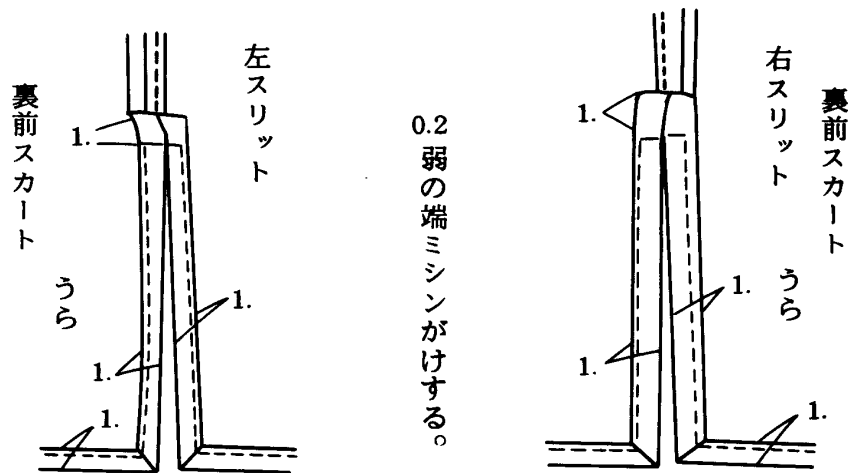




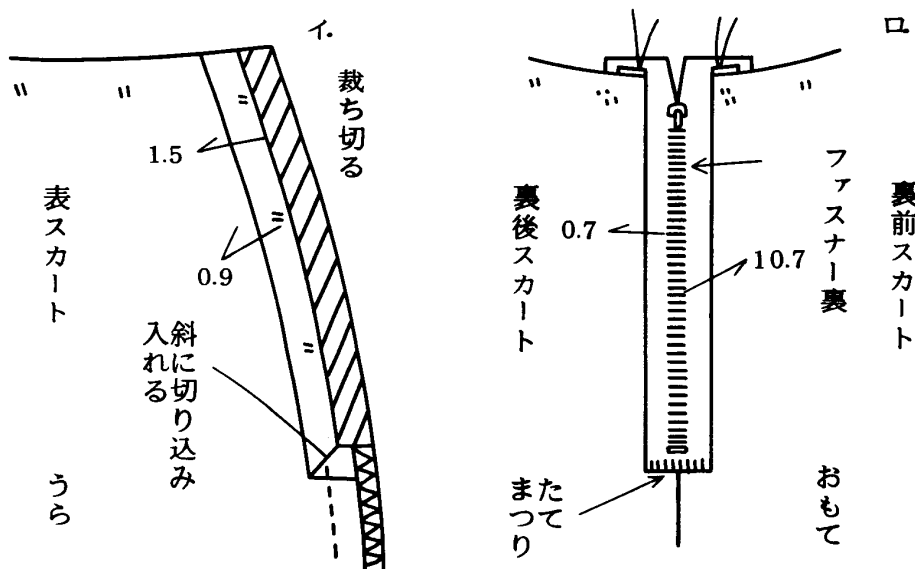
- ⑤ 裏スカート脇縫い。0.3 きせをし前に折る。



- ⑥ 裾とスリット 1 cm に三つ折りミシン。

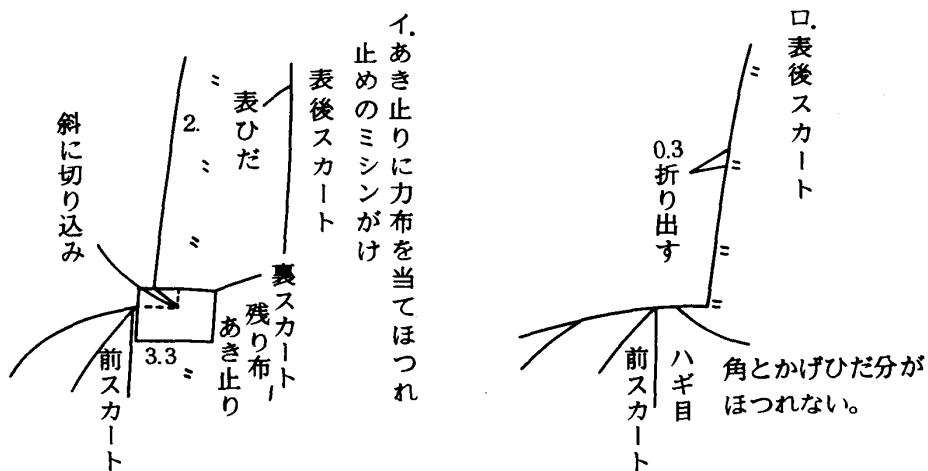


- ⑦ 裏スカート左脇にファスナーつけ。



ファスナー裏側に裏スカートを合せミシンがけし、よこの部分をたてまつりする。

⑧ 表スカート左あき止りのほつれ止め。



⑨ 表スカート左あきにファスナーつけ。

(W寸法を計って確認しておく)

⑩ 表スカートと裏スカートのWLを合せる。裏スカートのタックを中心が高くなるようにみピンを打ち、表スカートの脇と裏スカートの脇を合せピンを打ち、表裏のWLを合せしつけ。

⑪ ベルトつけ

表スカートと表ベルトを中表に合せ、しつけ、ミシンがけ、0.8の縫い代に裁ち揃え、ベルト丈の先を縫い、表返し、ベルト巾を整え、しつけ、表ベルトつけに落としミシン、持出しのつけ側の縫い代を整え、巾より少々内側をまつ。ベルトつけは格子模様のよこ縞がはっきりしているのでよこ縞に合わせてベルトつけする。

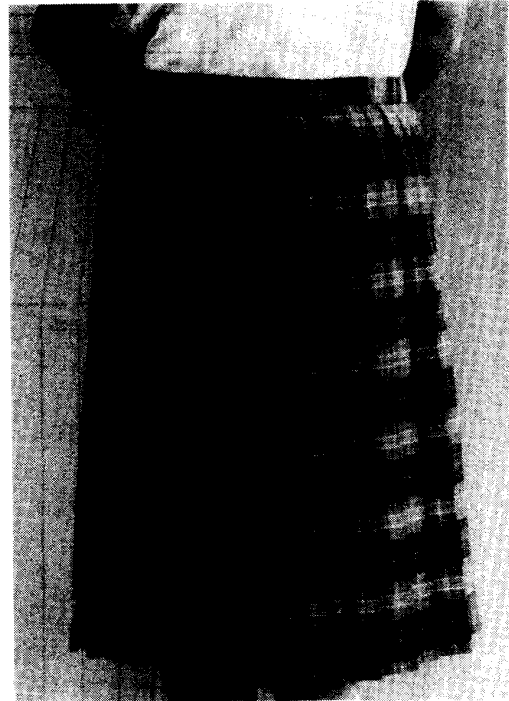
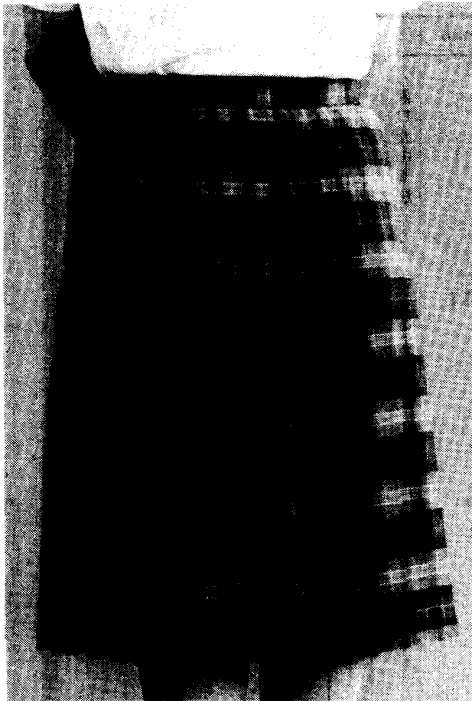
⑫ ベルトに前かんつけ。

スリットに糸ループ(ミシン糸3本どりのくさり編み3cm)つけ。

⑬ 仕上げ

ブラシがけし、プレス台を使用して裏スカートからアイロン、表スカートは当て布しブリーツ全体にアイロンがけ。

作例 3. 総プリーツスカート



1. 材 料

表スカート地……中肉ウール W巾150 cm (ウール・ポリエステル・麻の混紡)

裏スカート地……キュプラ (ヤール巾130 cm)

付属品……インサイドベルト (片面接着剤つき)

ファスナー

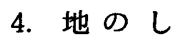
ミシン糸 (ポリエステル糸 60番)

前かん (1個)

2. 採 寸

		年 令	47才	教 員	
身長	153 cm	ウエスト	85 cm	スカート丈	62 cm
		ミドルヒップ	96 cm	ベルト巾	3.5 cm
体重	63 kg	ヒップ	103 cm		

ヒップ採寸の場合、下腹がやゝ出ているので、物指し (50 cm) を下腹に垂直に当て採寸、実寸のヒップ寸法よりやゝ多い寸法になる。



5. 裁 断

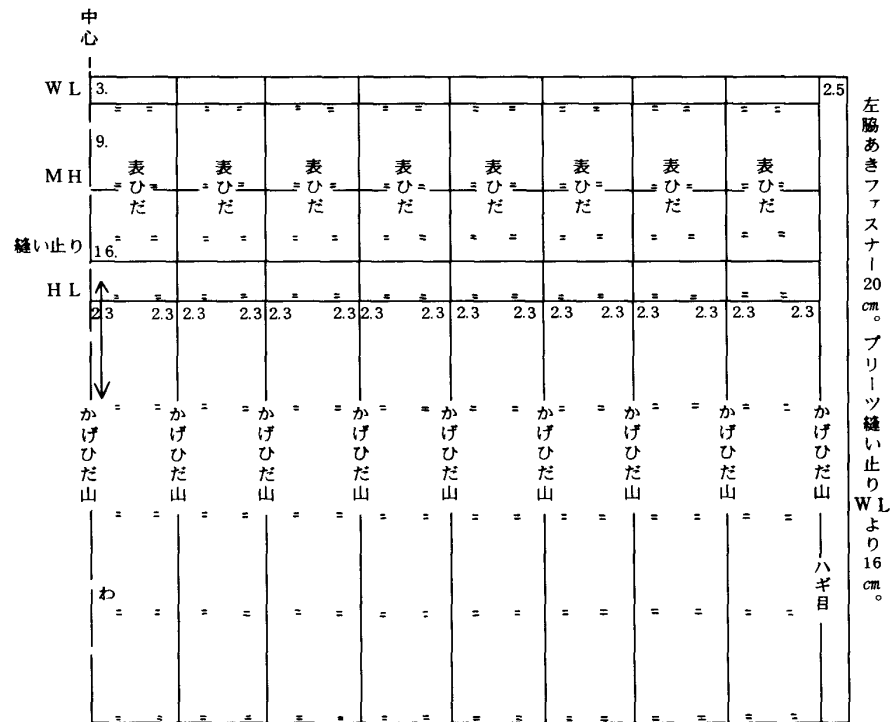
前後スカートの裾縫い代3 cmに表からロックミシンがけ，ベルトはウエスト寸法+8 cm

に裁ち裏ベルトの縫い代側にロックミシンがけ。

7. 前後スカートの裾まつり

8. 印つけ

後ろスカート，前スカート，同じ印つけ。（下の図は表側）



プリーツの算出方

$\frac{H}{4}$ に 8 本プリーツ数

H の表ひだ巾 (3.6) $\times 8 = 28.8 \text{ cm}$

かげひだ寸法は格子模様により $2.3 \text{ cm} (2.3) \times 2 = 4.6 \text{ cm}$

$4.6 \text{ cm} (4.6) \times 16 = 36.8 \text{ cm}$

$28.8 \text{ cm} + 36.8 \text{ cm} + 2.5 \text{ cm} = 68.1 \text{ cm}$

9. 切りじつけ

作例 2 に同じ。

10. プリーツのアイロンがけのテスト。

用具……作例 1 に同じ。

実物の残り布でテスト。

アイロンのかけ方は作例 2 に同じ，アイロンの温度は毛織物にし，高温になりすぎぬよう注意した。

テスト結果

折り目液をつけると、やゝ硬い風合いになるが、雨に降られた状態に霧を吹いてもプリーツ折り山は変らない。

11. 仮縫い

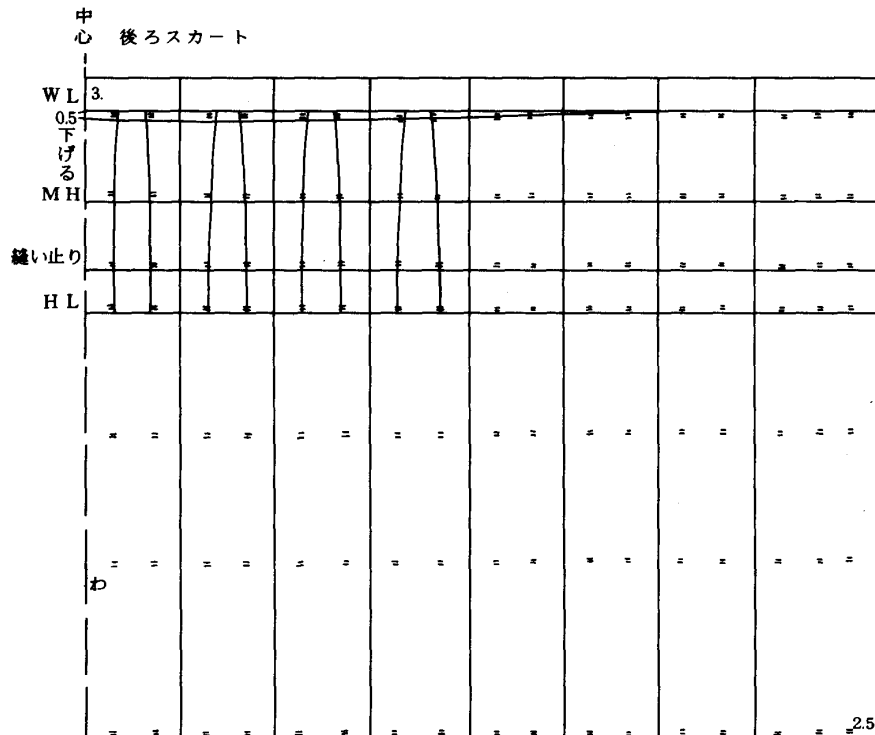
- ① プリーツ縫い止りを裏からしつけ。
- ② 後ろスカート、前スカートのプリーツにアイロンがけ。作例2のアイロンがけに同じ。
表スカートから折り目液をスプレーしハترون紙を当てアイロンがけ。
- ③ 脇縫い
右脇縫い、左脇縫いは左脇あき20.5 cm 残し縫う。
- ④ インサイドベルトはウエスト寸法+3 cmにし、ベルトつけ。

仮縫いの結果

体型に合った布地の選び方が好かった。一番大切なことだと思う。素材と格子模様
の色彩がよく合っている。ヒップのゆるみも適当であった。ウエストからミドルトに
かけてもよかった。前スカートは補正はなかった。後ろスカートの補正の図のとおり
後ろの一部分のみでWLのベルトつけは格子模様をくずさぬようにつける。

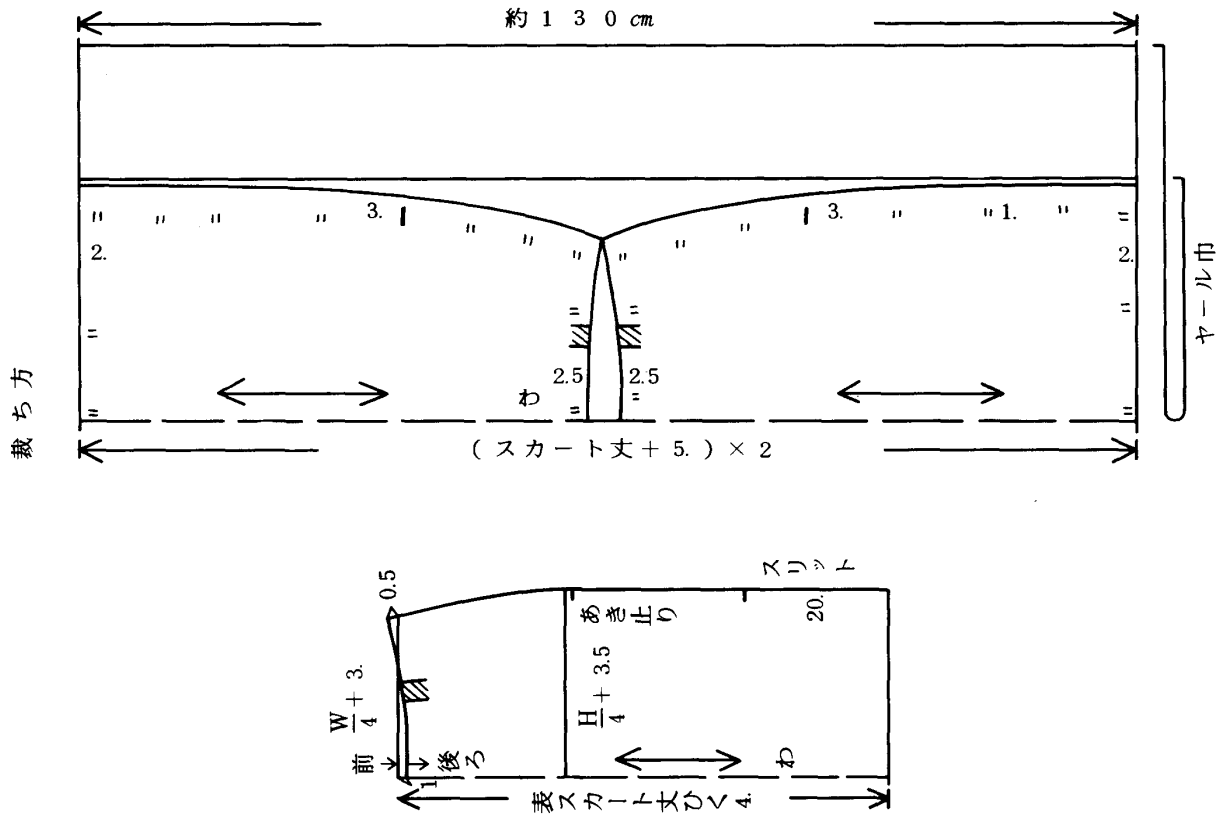
12. 補 正

後ろスカートの中心より上前、下前4本ずつWLからHLにカーブをけずるほどの補正



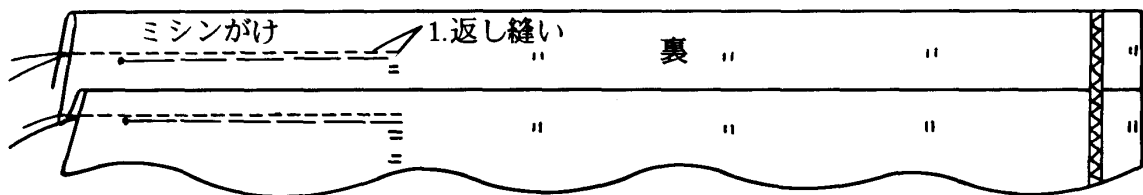
でよい。後中心でWLより0.5 cm下げてベルトつけ。

13. 裏スカートの作図, 裁ち方



14. 本縫い

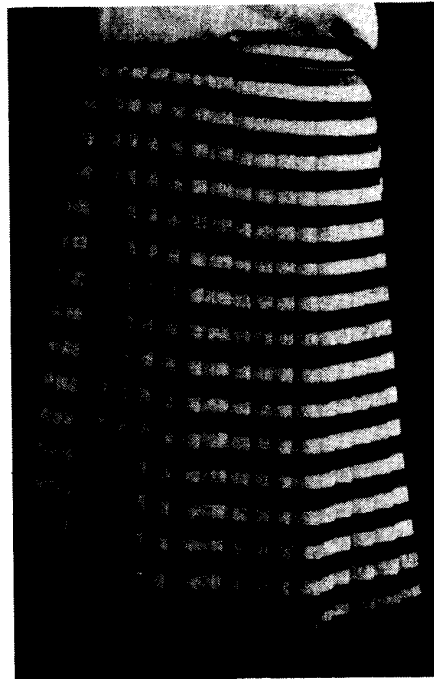
- ① 表後ろスカート, 表前スカートの縫い止りにミシンがけ, 上前を上にしアイロン, 次に水をつけアイロン。



- ② プレス台を使って表スカートに当て布しアイロンがけ, 裏スカートもアイロンがけ。
- ③ 脇縫い

格子模様を合せてピンを打ち, しつけ。地縫いミシン裾1 cm返し縫い。

作例 4. 総プリーツスカート



1. 材 料

表スカート地（夏物）…リネトロン ヤール巾 230cm

（ポリエステル麻の混紡）横縞模様

裏スカート地……………キュプラ（ヤール巾 140cm）

付属品……………インサイドベルト（片面接着剤つき）

ミシン糸（ポリエステル糸 80 番）

ファスナー

前かん（1 個）

2. 採 寸

年 令 57 才					
身長	160 cm	ウエスト	85 cm	スカート丈	65 cm
		ミドルヒップ	99 cm	ベルト巾	3.5 cm
体重	63 kg	ヒ ッ プ	101 cm		

3. プリーツの算出方

この素材の軟らかい風合いを損ねぬよう仕上げる。

表ひだ巾 2.5 cm, かげひだ巾 2 cm。

この素材の巾93.5cmをいっばいに使った。

$$\begin{array}{lll} \text{表ひだ巾} & \text{かげひだ} & \text{脇縫い代} \\ (2.5\text{ cm} \times 14 = 35\text{ cm}) + (4\text{ cm} \times 14 = 56\text{ cm}) + 3\text{ cm} & = & 93.5\text{ cm} \end{array}$$

◎ 素材が布目が好く通るので印つけなし。

4. 裁 ち 方

横縞なので色彩も考え、スカート丈で白を出し、ウエストも少し白を出した。

スカート丈+W L縫い代+裾縫い代3.5cm=裁切りスカート丈^{ひと}(一丈と言う)三丈の横縞を合せて裁つ。ベルト分横布で9.5cmに裁つ。

5. スカート裾3cmにロックミシンがけ、裾まつり。

6. プリーツのアイロンがけテスト

用具……作例1に同じ。

残り布で表ひだ山の布目を通し、内側から(かげひだ側から)ハترون紙を当てアイロンがけ、化繊2の温度でかける。化繊は高温でかけると縮んで直す方法はない。次に折り目加工液を布につけハترون紙を当てアイロンがけ、折り目加工液をつけてアイロンがけしても布の変色もなく、やゝ硬い風合になる。

7. プリーツ折り方の注意

表ひだ山、かげひだ山、に布目を通すこと。

① 表スカートの右耳よりハギ代1.5cmしろもで糸じるし(かげひだ山になる)

② ハギ代より2cm物指しで計り10cm間隔にピンを打つ。(表ひだ山)にアイロンがけ。

次に折り目加工液をつけハترون紙を当てアイロン、表ひだ山を折りアイロン。

③ 1本目の表ひだ山より6.5cm物指しで計り、10cm間隔に虫ピンを打ち、布目通す。

かげひだ側から紙を当てアイロン、次に折り目加工液をつけハترون紙を当てアイロン。

④ 1本目の表ひだ山より2.5cmにピンを打ち3の表ひだ山を合せ、表ひだ側からハترون紙を当てアイロンがけ。

③と④を繰り返し、プリーツ14本折る。時間をかけ1本1本を伸ばぬように折り上げる。(かげひだ山もアイロンで折られる)

⑤ 表と裏スカート側からスプレーで折り目液を吹きハترون紙を当て全体にアイロンがけ。

⑥ 3枚プリーツが折れたら、ウエスト表ひだにピンを打ち、スタんにW Lをピンで止め、プリーツの折り山が伸びていないか、全体に平均にアイロンがけが出来ているかを調べる。

8. 仮 縫 い

- ① ハギ目（かげひだ山）を合せ、横縞模様がずれないようにする。
- ② 左脇あき。ウエストから20.5 cmあけ脇縫い。
- ③ 右脇と前後中心をきめ糸じるし。

表ひだ巾 $2.5 \text{ cm} \times 42$ （プリーツ本数）＝ 105 cm

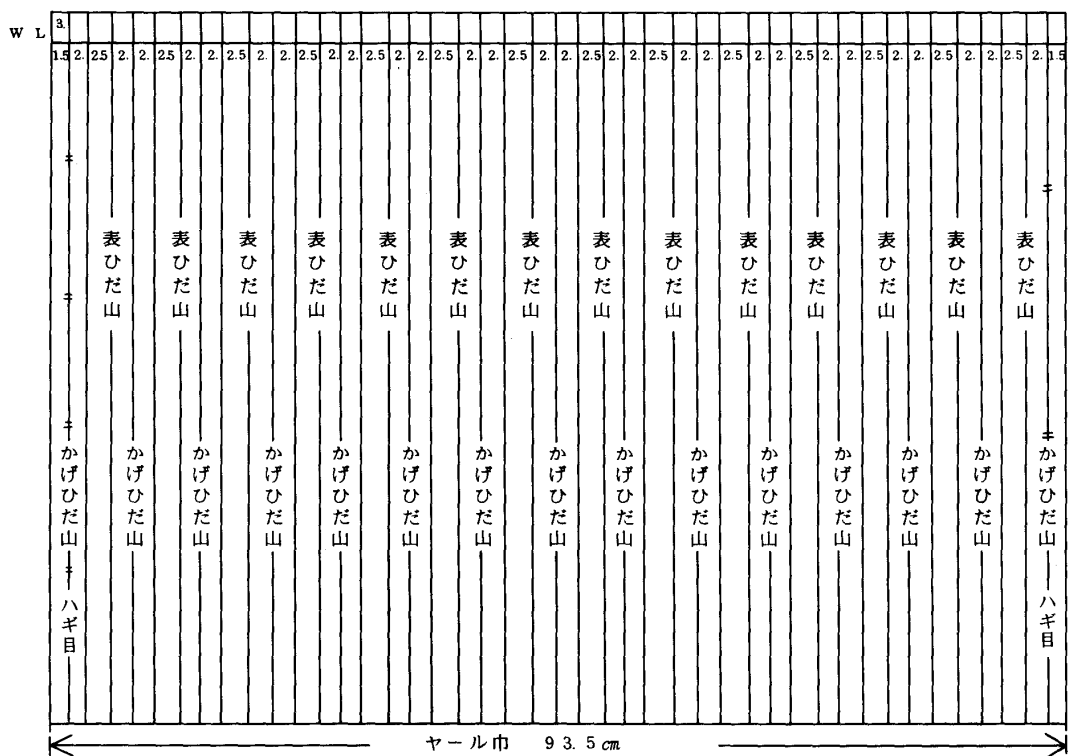
$$105 \text{ cm} \div 4 = 26.2 \text{ cm} \left(\frac{H}{4} + \text{ゆるみ} \right)$$

- ④ ウエストラインをウエスト寸法の85 cmに前後スカートの両脇でおもにつめる。
- ⑤ インサイドベルトつけ。

横縞模様に合せて、インサイドベルトつける。

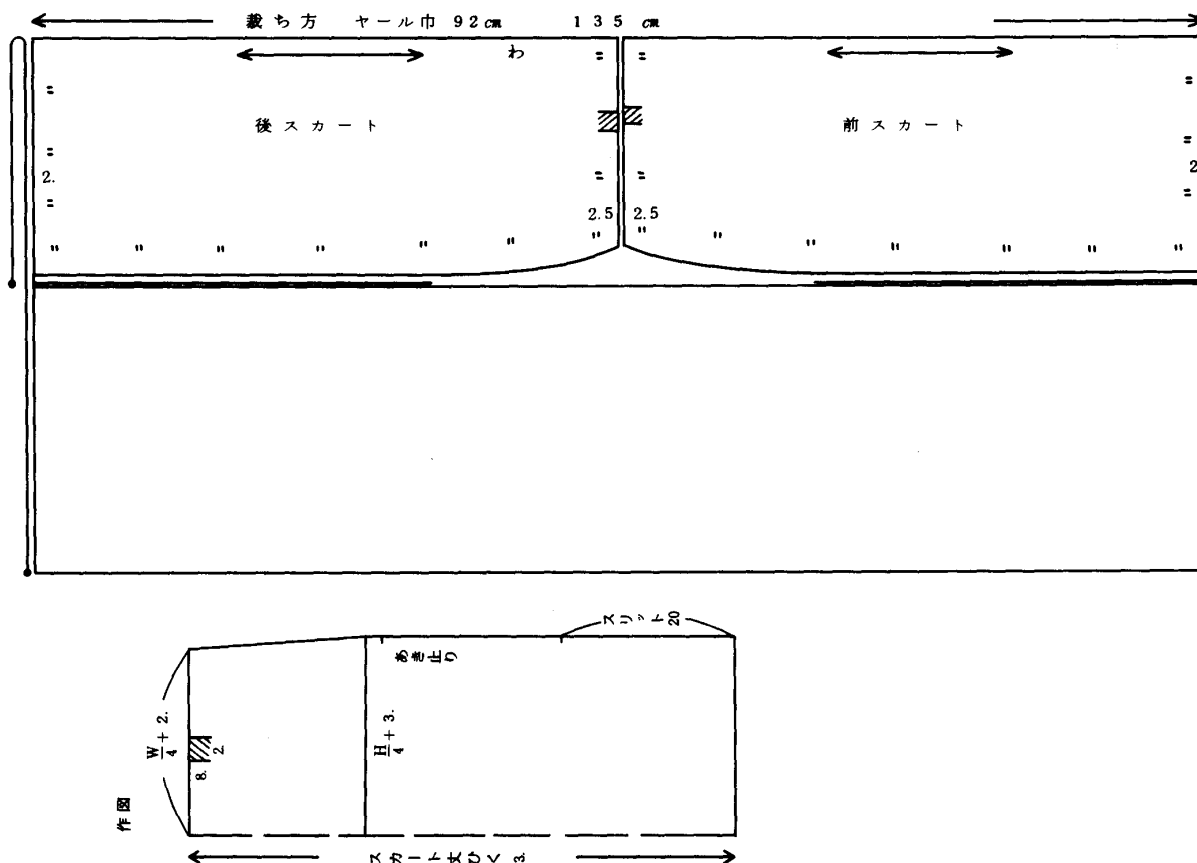
9. 補正はなし。

ヒップのゆるみが少いと思ったが、素材が軟らかいので適当であった。着用するとプリーツが揺れ、かげひだが動きゆるみとなる。素材の選択がよかった。



プリーツ折り図

10. 裏スカートの作図, 裁ち方



11. 本縫い

- ① ベルトに裏打ちする。(裏スカート残り布で表ベルトと同じに裁ち, 表ベルトの裏に合せしつけ) 内側になる裏ベルト縫い代 0.8 cm つけてロックミシンがけ。
- ② 表スカートハギ目合せミシン, 裾口返し縫い, 裁目 ロックミシンがけ。
- ③ 左脇縫い。
ウエストより 20.5 cm あき止り, あき止りと裾口返し縫い。
- ④ 裏スカート縫い方。
作例 2 に同じ。
- ⑤ 表前スカートの左脇あき縫い代にうす手の接着テープを貼る。
- ⑥ 表スカートにファスナーつけ。
下前はミシンがけ。

上前は星どめにする。

- ⑦ 表スカートWLを85cmに表ひだ巾を直し，裏スカートにタックをとり，表スカートと裏スカートのウエスト合せ，しつけ。
- ⑧ ベルトつけ。
作例2に同じ。
- ⑨ ベルトに前かんつけ。
裏スカートスリットに3cmのくさり編をつける。
- ⑩ 仕上げアイロン。

結 論

今回、普通肥満タイプに重点をおき、20代から中高年に致る比較的はばをもたせた年令層を対象として、総プリーツのスカートを製作した結果、考慮すべき諸点が見受けられたので一考を試みたい。

総プリーツスカートは、プリーツならではの線の動きがあり、その優雅さは格別のものがある。このようなプリーツの特質を生かすために、四季折々にマッチした生地・素材・色彩・柄・格子模様など個々の好みに合ったデザイン、着用する場所など、活用範囲をも考慮に入れて生地を選択をした。

そして、製作にあたっての重要なポイントは採寸方法である。普通タイプの肥満型は下腹部が出ているので、実際の採寸にあたっては、50cm物指しを垂直に当て腰部を一囲して計る実寸の腰囲寸法より下腹部の出ている分多くなる。側面から見て下腹部から垂直にスカート丈となり美しいシルエットになる。

また、ヒップのゆるみも生地材質によって違うので、この点も考慮した。

プリーツは表ひだ、かげひだ2枚と計3枚が重なって1本のプリーツを構成しているので3枚の内側が着用した時の寸法になることも考えに入れた。

製図するにあたってプリーツの本数を何本にするか大切な点で、そこで、プリーツの本数をきめる方法として、次の点に留意した。生地によって違う、模様によって異なる。例えば、格子模様の場合など、格子のたて・よこの寸法・色彩・出し方によってもプリーツの数が違ってくる、また生地の布端で試し折りをして全体の様子を見ながら本数をきめる場合もある。それぞれの持味や模様の特徴を生かしてプリーツの本数をきめた。

プリーツを1本1本折り上げるにあたって注意すべきところは、生地の質によってアイロンの温度調節・重さ・水分・折り目加工液などの使用によって条件が変わってくる。そこで、ウール100%の生地を折り上げる場合、さして問題はなく、比較的スムーズに折り上げることが出来た。問題なのは化繊で、材質によってはアイロンの温度に左右されやすく、また、高温で手早く折り上げるということは不可能に近い。そこで高温にならぬよう十分に注意し、アイロンの目盛を化繊2の位置にしてアイロンがけをし折った。折り目液については生地の風合いを余りそこねることなく、難を云えば、少々硬めになった程度でたいした問題は見当らなかったと云えよう。

アイロンについて云えば、現在種類も豊富で、それぞれの生地の質によって使い分けられる。生地の織りのしっかりしたものは重いアイロン、薄手の生地には普通アイロン、専門的

な面からは各々にあったアイロンを使用して、1本1本忍耐強く丁寧に折り上げて行くことが大切である。

ベルトのつけ方は無地のものは普通スカートのベルトつけとほぼ同じであるが、格子模様や横縞のものは、横の格子や縞がくずれないように平行につける。

以上列举した事柄に留意しながら、作例2について述べてみたいと思う。

この素材はサキソニー。ウール地で茶系統の複雑な格子模様である。表プリーツ折り山に紺色の縦縞が入っているのでよく目立ち、ウエストからヒップまでの間にこの線がねじれないように補正した（補正図を参照）。ヒップから裾まではストレートなので問題がない。かげひだの部分にやゝ白っぽい色彩が入っているので、着用するとかげひだが揺れて、その都度違った雰囲気がかもし出される。総プリーツのウール地としては最適のものである。

無地で1点、格子模様2点、横縞1点と格子模様が主体となったが、格子を生かしてプリーツの折り方を変化させると、新鮮さに富み、また、斬新さにあふれる無限の美しさが展開される可能性は大である。

夏休中、総プリーツ用の生地を求めてあちらこちらと歩きまわり、今まで体験しないような苦労も味わった。どうしても手に入れたかった縦縞のプリーツ生地が入手出来なかったのは残念でならない。

近年の繊維の進歩が著しく、複数繊維の混紡が多く被服構成上むずかしい点がある。まだ充分な考察を得なかったが、更に素材を変え、製作研究を進めて行こうと思う。